

ずいそう

雲海を求めて

神 田 昭 憲



近年、地震・大雨・大雪・猛暑等の異常気象が頻繁に起こり、大きなニュースになっています。直近では昨年夏の西日本豪雨や大阪北部地震・北海道胆振東部地震が思い出されますが、自然現象はこうした深刻な被害をもたらすものばかりではありません。時にはこれまでに見たことも無いような絶景を作り出したり、幻想的な風景で私達の心を豊かにしてくれることもあります。代表的なものでは、オーロラ・虹・蜃気楼・ダイヤモンドダスト・雲海などが挙げられます。まだまだ多くのものがありますが、近年日本でも良く話題に挙がる雲海について紹介をしたいと思います。

雲海とは読んで字のごとく雲が海のように拡がっている景色のことで、日本国内でも多くの鑑賞スポットが存在します。最も有名なものは兵庫県の竹田城跡から見られる雲海で、天空の城とか日本のマチュピチュとも呼ばれています。また、北海道の星野リゾートトマムには雲海テラスというものが存在し、雲海を見るためのデッキが設置をされ、併設されたカフェではコーヒーを飲みながら雲海を眺めることができます。

雲海と言っても実はその種類は6種類も存在するとのことで、簡単に紹介をさせていただきます。

1. 放射霧の雲海：放射冷却によって冷やされた地面が、空気中に含まれる水蒸気を冷やし霧が発生する。これが最も一般的な雲海です。
2. 雨上がりの雲海：雨によって地面には多くの水分が蓄えられ、雨が上がり晴れて夜間になると気温が下がり、地表付近の湿った空気が冷やされ霧が発生する。
3. 蒸気霧の雲海：川や湖などの暖かい水面上に冷たい空気が流れ込むと、水面から蒸気が発生し霧が発生する。
4. 移流霧の雲海：冷たい海上や陸地に暖かく湿った空気が流れ込むと、空気の下層から冷やされて霧が発生する。
5. 上昇霧の雲海：暖かく湿った空気が山の斜面をはい上がる途中で、空気中に含まれる水蒸気が冷やされて霧が発生する。
6. 悪天候時の雲海：低気圧や前線の影響で雨が降っ

ている時に、雨が降ることによる湿度の上昇で低い高度に雲ができることがある。この時に上の雨雲と下の雲の間に隙間があると、その隙間に雲海ができることがある。

以上が雲海の種類となりますが、では何故通常の雲の様に高い所ではなく、低い場所に出来るのか？ 雲は通常いったん発生すると上空に向かって発達・成長をしていきますが、このとき上空に暖かく乾燥した空気の層があると、それより上には成長は出来なくなります。よって、雲海の見られる場所というのは地面に近い付近のみ冷えていたり、上空の暖かい空気が流れ込んできて、雲の天井を形成するといった気象条件が必要となります。

こんな知識を即席で覚え、私もいざ雲海を求めて鑑賞スポットに出掛けました。場所は広島県三次市の高谷山。標高 500 m 弱の小さな山ですが中国地方では雲海スポットとして広く知られています。狙いを定めたのは11月の3連休中日。当日の天気予報は晴れ。但し、前日の暖かさから反転、この秋一番の寒気で最低気温は0度の予報。この予報通りであれば、雲海を見られる可能性はかなり高いと思いながら、逸る心を抑えて向かいます。目的地までは自宅のある広島市内から1時間強。日の出前の到着を目指し午前5時に出発をしました。広島市内を抜け三次市に入る前には、既に辺りには霧がかかりはじめ、否が応でも期待に心膨らみます。この高谷山は山頂の展望台まで車で行くことができるため、予定通り午前6時30分前には到着しました。既に駐車場には多くの車が停まっており、あやうく車を停めるスペースが無くなる程の人気ぶりでした。車内の温度計では外気温は-2度を示しており、霧の発生も申し分ない状態です。さあ車を降りて展望台まで向かおうと外に出ますが、とにかく寒い。しかし、早く見たい！寒さをこらえて展望台に向かう途中で、山頂の霧も晴れ周囲が見渡せる状態になってきました。展望台が視界に入ると、既に集まっている多くの人達がカメラのシャッターを切っています。これは雲海が見えているにちがいないと思い、少し小走りで進んで行きます。いざ展望台に到着をすると、これまでには見たこともない景色が目の前に広がり、そ

の絶景にしばし寒さを忘れることができました。市内が全く見えないほどの雲が辺り一面に広がり、空気の流れによって雲がうねる様子は、まさしく海で見る白波の様でした。

当日の日の出時刻は午前6時50分頃でしたので、辺りはだんだんと明るくなっており、雲海を眺めながら日の出も見ることができると期待をしましたが、先程まで晴れていた霧が山頂を覆いはじめ、日の出はお預けとなってしまいました。その後はしばらく車内で暖をとり、霧が晴れるのを待ち、もう一度だけ雲海を眺めることが出来ました。

こうして見事最初のチャレンジで雲海を見ることができました。実際に見るその景色は非常に壮大で、神秘的な光景でした。この高谷山では10月～3月が雲海が見られる可能性が高いシーズンですが、日本国内でもまだまだ多くのスポットが存在します。気象条件が大きなポイントになりますので、必ず見られるというものではありませんが、様々な気象情報を駆使して



可能性が高そうな日を予想するのも楽しいものです。日常の喧騒から離れ、たまには自然に心癒される時間を体験されてはいかがでしょうか。

——かんだ あきのり (株)西島製作所 広島支店長——

